

平成28年度 長崎県立大村工業高等学校 自己評価表(職員)

学教目標	<p>真理と正義を愛し、平和的な郷土および国家を担う責任を自覚し、社会の発展に寄与する心身ともに健康な工業技術人を育成する。長崎県教育振興基本計画をもとにして、生徒の実態を把握し、厳しさの中に親切、丁寧な指導に努め、「知・徳・体」の調和のとれた人間形成と実践的な工業人の育成を目指す。また、社会に主体的に関わっていく人材の育成も重要であり、『一芸に秀でる者は多芸に通ず』のことわざが示すとおり、あらゆる教育活動の中で、個々の生徒の優れた一面を見出し育てることで、新たな自信や目標をもたせる生徒指導に全教職員が一丸となって取り組む。</p>
学経方針	<p>『正々堂々 大村工業 ～みんなで一所懸命～』 これまで築き上げてきた伝統を土台として、目指す生徒の育成に組織的かつ計画的に取り組む。あわせて生徒・保護者・地域・同窓生・教職員が一体となって日本一の学校づくり、生徒づくりを目指す。</p>
前年度の成果と課題	<p>前年度は前期学校評価をもとに分掌・学科・学年の組織評価そして本年度の組織目標に反映させた。全職員の総意のもとに、一致団結して取り組むとともに将来を見据えた目標や具体的対策を常に考える。</p>
本年度重点努力目標	<p>(1) 健全でよりよい生徒の成長を期し、学習と部活動の両立を根幹に据え、心身ともに健全で豊かな人間性の育成に努める。 (2) 一人ひとりの個性を尊重し、工業技術人としての知識や技術を確実に修得させるよう努める。 (3) 自己教育力を高めさせるとともに、思いやりの心を持って人と接する態度の育成に努める。 (4) 常に高い目標意識をもって健全な高校生活を送らせるよう努める。 (5) 奉仕活動や体験的キャリア教育を通じて、社会の一員としての意識を持たせるよう努める。</p>

(4:十分達成している 3:おおむね達成している 2:どちらかという達成されていない 1:ほとんど達成されていない)

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価	H28前期	H28後期	H27	H26	
1 組織運営 教育活動の円滑化、教師集団の協調性に関わる教育的成果の評価									
校務分掌	組織的な活動と運営	分掌内規の再検討と各分掌間の連携を図る。	各分掌内規の見直しを図る。	(1)	2.7	2.9	2.8	2.8	
			各分掌間の連携・連絡を密にする。	(2)	2.8	2.8	2.9	2.8	
2 学校経営 全職員が共通の理念にたった教育的成果の評価									
学校経営	職員意識の向上	全職員がチームとして、互いに協力・補佐し、生徒の規範意識の向上に努める。	正副担任・顧問・教科担任等全職員が連携を強め、生徒のしつけ、問題行動の予防、規範意識の向上を図る。	(3)	3.0	3.0	3.0	3.0	
			一人で抱え込まない、悩まない協力体制を築き、お互いを補佐する気持ちを持つ。	(4)	3.0	2.9	2.9	2.8	
学年経営	1 学年	基本的な生活習慣を確立させ、大村工業生としての自覚を持たせる。	欠席・遅刻・早退がないように、自己管理に努めさせる。	(5)	3.2	3.0	3.1	3.1	
			正しい整髪服装、フンストップ挨拶、自転車マナーを定着させる。	(6)	3.0	2.9	-	-	
			学習活動、各種行事等に熱意を持った態度で取り組むよう促す。	(7)	3.0	3.0	-	-	
			真剣に授業に参加する態度を定着させ、基礎学力の向上を図る。	(8)	3.0	2.9	-	-	
			各種資格取得に本気で取り組みせ、達成感、充実感を持たせる。	(9)	3.1	3.1	-	-	
			家庭学習の定着を図り、基礎学力の充実を推進するとともに、各種資格試験にも積極的に取り組みせ、専門学科への興味・関心を持たせる。	(10)	2.8	2.8	-	-	
	2 学年	進路について考えさせ、自ら学ぶ意欲と態度を身につけさせる。	企業見学会や職業講話・進路ガイダンス等を通し、進路目標を確立させる。	(11)	3.0	3.2	-	-	
			中堅学年としての自覚を持ち、主体的な学校生活を送らせる。	挨拶を心がけ、節度と規律のある生活を送らせる。	(12)	3.2	3.1	3.2	3.1
			学習と部活動の両立を実現させる。	(13)	2.9	2.9	3.0	2.8	
			行事や特別活動などに積極的に取り組ませる。	(14)	3.2	3.2	3.1	3.2	
			進路目標の実現に必要な情報の収集に努めさせる。	(15)	3.0	3.0	3.0	2.8	
3 学年	進路目標を見定め、自己の資質の向上に努めさせる。	真剣な態度で授業に取り組ませ、自ら学ぶ姿勢を身につけさせる。	(16)	2.9	2.9	2.8	2.8		
		各種の資格試験・検定試験に意欲的に取り組ませる。	(17)	3.2	3.1	3.0	3.2		
		ホームルーム活動を通して、集団の中での自分の役割を自覚させる。	(18)	2.9	2.9	2.9	3.0		
		言葉を大切にし、他者を傷つけるような言葉を使わせない。	(19)	3.0	2.9	2.9	2.9		
		最上級生としての自覚と行動を促し、充実した学校生活を送らせる。	挨拶、端正な服装や頭髪に心がけ、節度と規律ある学校生活を送らせる。	(20)	3.2	3.0	3.1	3.1	
学級経営	学級目標の設定	行事や特別活動などに積極的に取り組ませる。	(21)	3.2	3.2	3.2	3.3		
		自己の進路実現に向け、主体的に取り組ませる。	真剣な態度で授業に取り組ませ、自ら学ぶ姿勢を身につけさせる。	(22)	2.9	2.9	3.0	2.9	
		各種の資格試験・検定試験に意欲的に取り組ませる。	(23)	3.1	3.1	3.1	3.2		
		他者を尊重し、広い視野を持って社会に貢献する姿勢を身につけさせる。	集団の中での自己の役割を自覚させる。	(24)	3.0	3.0	3.0	3.0	
		言葉を大切にし、他者を傷つけるような言葉を使わせない。	(25)	3.0	2.9	3.0	2.9		
		各学級目標を設定する。	各学級の具体的な目標を設定し、その実現に努める。	(26)	3.1	3.0	3.0	3.1	

(4:十分達成している 3:おおむね達成している 2:どちらかという達成されていない 1:ほとんど達成されていない)

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価	H28 前期	H28 後期	H27	H26	
3 教育活動 教育活動全般における計画的・組織的な教育的成果の評価									
教育課程の編成	教育課程の編成	本校の実態に即した、特色ある教育課程を編成する。	生徒の多種多様な進路実現に向けた教育課程の編成を検討する。	(27)	3.1	3.0	3.1	3.0	
教科指導	基礎学力の向上	基礎基本の充実。	基礎・基本を大切に手厚い授業に努める。	(28)	3.1	3.1	3.1	3.1	
			家庭学習の確保に取り組み、基礎学力の定着を図る。	(29)	2.6	2.5	2.5	2.5	
	学習意欲の向上	わかる授業の展開。	周到に準備された教材と板書による充実した授業に努める。	(30)	3.0	3.0	3.0	3.0	
			個々の疑問・質問にも丁寧な対応をし、成績不振者には早めに対策を行う。	(31)	3.2	3.1	3.2	3.1	
	適切な学習評価	評価基準の設定に努める。	評価項目や基準を適切に設定し、生徒に認識させる。	(32)	3.0	2.9	3.0	3.1	
指導力の向上	研究授業などの定着と充実。	定期的研究授業・研究協議を実施し、互いの指導力の向上に努める。	(33)	3.1	2.9	3.1	3.1		
生徒指導	基本的な生活習慣の育成	生徒の自主性をのばし、規律ある生活態度が樹立できるように積極的に指導する。	授業や部活動等において、全職員で生徒指導に取り組む。	(35)	3.1	3.0	3.0	3.1	
	社会規範意識の涵養	自らを集団の一員として自覚し、規範意識の向上に努めさせる。	諸規則違反はLHRや生徒会活動の中で集団の問題としてとらえさせ、一人ひとりが自分のこととして考えることにより、自らの力で解決させるように働きかける。	(36)	3.1	2.9	3.0	3.0	
進路指導	適切な進路指導	多種多様な希望の進路実現を目指す。	進路情報を積極的に提示し、学年ごとに適した進路指導とガイダンスを推進する。	(37)	3.2	3.2	3.3	3.1	
			就職・進学内定率100%を目指す。	(38)	3.5	3.6	3.5	3.6	
特別活動	特別活動	工業高校らしい特色ある取り組みを実践する。	実践的工業人育成のため、資格取得、インターンシップ、ものづくり教育の推進に努める。	(39)	3.3	3.3	3.4	3.2	
	学校行事	効果的な行事の工夫をする。	授業時数の確保も考慮に入れた、行事の精選を図る。	(40)	2.7	2.7	2.7	2.6	
	部活動	部活動の活性化を目指す。	体育祭(や工業祭)などの行事では、自主性を尊重し、工業高校の特性を生かせるよう計画する。	(41)	3.3	3.2	3.3	3.2	
			顧問間で連携し、目標に向かって積極的に活動する。	(42)	3.3	3.3	3.3	3.2	
4 教育環境 学校の置かれている条件や環境に関わる教育的成果の評価									
環境整備	明るい学校環境の整備	公共心を育成する。	毎日の清掃の徹底と公共物を大切にすることを育て、気持ちのよい環境にする。	(43)	3.0	3.1	3.2	3.0	
			教育に必要な施設、設備を整える。	(44)	3.1	2.9	3.1	3.0	
	環境教育の推進	省エネ・省資源を推進する。	紙・水道・電気の使用量の節減に努め、リサイクル運動の推進を図る。	(45)	2.8	2.8	2.9	2.7	
情報インフラの設備・充実	教育活動全般の情報化	学校便りとホームページを充実させる。	HPの更新を定期的に行い、大工だより、進路だより等充実させ、学校の情報を積極的に発信する。	(46)	2.8	2.9	2.9	2.9	
			校内LANの利用を促進する。	進路情報を教室で検索できるようにする。	(47)	3.0	3.1	3.2	3.1
			文書の電子化を促進し、業務の効率化を目指す。	(48)	2.9	2.9	2.9	2.8	
5 開かれた学校づくり 保護者や地域等との連携における教育的成果の評価									
開かれた学校	保護者との連携 地域の人々や関係機関との連携	協力体制を確立する。	保護者との連絡を密にし、生徒・保護者の悩みや相談に丁寧な対応をする。	(49)	3.2	3.1	3.1	3.0	
			公開講座を開催する。	(50)	3.0	2.9	3.0	3.0	
			中高連携事業や広報活動を推進する。	(51)	3.3	3.0	3.1	2.9	
			ボランティア・奉仕活動に取り組む。	(52)	2.6	2.6	2.7	2.7	
6 生徒の教育成果 学校教育の主たる知・徳・体の三分野からその学校の教育活動全般を通して生徒の教育的成果の評価									
豊かな人間性	タフで思いやりのある心	ルールを守り、困難に打ち勝つ大きな心を持っている。		(53)	3.0	2.9	2.9	2.8	
			相手の気持ちになって行動できている。	(54)	2.9	2.8	2.9	2.7	
学力の定着・向上	基礎基本の定着	自らの学習目標を設定している。		(55)	2.6	2.7	2.7	2.4	
			真剣な態度で学習に取り組んでいる。	(56)	2.9	2.8	2.8	2.8	
健康・体力	健康管理 体力の向上	自ら健康管理に努め、清潔安全と健康に配慮している。		(57)	3.1	2.9	3.0	3.0	
			健全な生活習慣に努め、基礎体力の向上に努めている。	(58)	3.1	3.1	3.1	3.1	